第２回学校環境適正化検討委員会会議録

一、日　時　令和４年１２月２２日（木）　午後３時００分～午後４時３０分
一、場　所　象潟公民館　２階　大ホール
一、出席者　本間　徳之、伊藤　兼壽、大橋　次雄、楢岡　一英、土田　寿子、
石船　清隆、横山　英弥、大須賀　博、阿部　道、伊藤　剛喜、
佐藤　健、阿部　徳之、佐藤　真二郎、村上　道夫、佐藤　直哉、
武内　隆之、佐々木　誠、三浦　順子、佐藤　緑、齋藤　隆、
小笠原　愛美、宮崎　絵理、竹内　るり子、見山　謙一郎
（計２４名）

一、事務局　教育次長　畠山　真姫子、教育総務課長　今野　和彦、
学校教育課長　菱刈　宏記、
教育総務班　班長　佐々木　真紀子、主査　齊藤　沙織、
主任　竹屋　昭宏

●佐々木班長　ただいまより、令和４年度第２回学校環境適正化検討委員会を開会します。はじめに、畠山教育次長よりご挨拶申し上げます。

●畠山教育次長　皆様、こんにちは。第１回目の会議から、2 か月がたち、年の瀬のお忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。本当に感謝申し上げます。
本日は、2 回目の検討委員会ですが、いよいよ、皆さんから多くの声・意見を出して頂く場となります。
第 1 回目は、見山先生からご講演を頂きました。誰も経験していない未来を担う子ども達が、「なぜ」の探究心を持って、想像から創造へ思考を循環させ、行動に繋げ、夢や希望を持ち、切り開いていくような子ども達を育みたいと、とても、前向きな気持ちになりました。
どこまでも、子ども達を中心において、話し合いを進めていきたいと思います。今日は、各学校の良いところを話し合う日です。良さと課題は、表裏をなしていると思います。また、永久に続く、完璧な良さというものは、無いと思います。どうぞ、今思うことを、恐れずに、1 分でも、一言でも多く、残らず良さを出し尽くす思いで、トークを盛り上げて頂きたいとお願いします。今日の私たちの目的は、各学校の今の良さを出し合い、これから何が大切か、何を目指すか、を皆

で出し合い、考え、例え、学校環境が変わっても、きちんと携えて、提言書につないでいくことだと考えます。どうぞ、堅くならずに、皆さんの言葉で、何度でも、声に出して頂けたらとお願いします。活発にお声を出して頂くことをお願いして、あいさつとさせて頂きます。

●大橋委員長　皆様よろしくお願いします。それでは、案件に入ります。1）学校環境適正化アンケート調査についてです。事務局より説明をお願いします。

●齊藤主査　はじめにアンケートの概要について説明します。事前にお配りしました調査結果の冊子をお開きください。
このアンケートは、今後も児童生徒数が減っていくことを現実的な問題と捉えたうえでこれからの小中学校の在り方、意向を把握するために実施しました。実施期間は、9 月 1 日から 16 日まで。アンケート対象は未就学児と小中学校の保護者、教員、児童生徒、各自治会です。配布数と回収率は、1 ページ（4）のとおりです。対象者別に見ていずれも 80%を超える高い回収率でした。
次に、保護者、教員、自治会アンケートの結果について説明します。
問の内容から、大きく 4 つの項目に分類しました。①学級数・人数、②通学、③学校区、④学校の適正規模・適正配置についてです。ここからは、説明内容が複数のページに渡りますのでご了承ください。
一つ目、学級数・人数から説明します。こちらに該当するのが 2 ページの問 1、4 ページの問 3、9 ページ下段の問（教員のみの設問）の 3 つです。小学校では 2 学級以上、中学校では 3～5 学級の割合が最も多く、いずれも今より学級数を増やして、1 クラスの人数を少なくした方が望ましいという傾向がみられました。
寄せられた意見としては、
・生徒一人ひとりに目が届くよう、1 学級 30 人以下の少人数にする
・1 学級のみだと人間関係に問題が生じたときに逃げ場がない　ということが
挙げられていました。こうした意見は、保護者、教員に共通してみられました。
二つ目、通学についてです。こちらは 3 ページ問 2、5 ページ問 4、7 ページ問 6 が該当します。時間や距離よりも、安全な通学手段の確保が最優先という結果でした。通学時間は、小学校、中学校ともに、徒歩やバスといった通学方法に関係なく 30 分以内が望ましいという声が多くありました。徒歩の場合で 30 分ですと、小学生の足で約 2 キロの範囲、中学生だと 6 キロの範囲です。バスの場合では、25 キロの範囲となります。
また、「保護者の送迎にかかる負担を少なくすることも必要」との意見もありました。
三つ目、学校区についてです。5 ページ、6 ページの問 5 が該当します。こちら

は学校区を設定する際にどんなことを重要と考えるか、重要度を測る設問でしたが、分布がほぼ均等になっており、総合的にみると、今の学校区のままで人数を増やし、学級数も増やすという結果になります。
自由記述の部分では
・学校が地域をつなぐ役割や、地域活性化の役割を果たしている
・地域の伝統芸能・行事を学んでもらうために必要
などの理由で旧町単位に１校ずつあることが望ましいという意見がありました。
一方で、
・やりたい部活がある、学びたい内容がある等の理由で、通う学校は自由でもいいのではないか　というような、保護者や本人が通う学校を自由に選択できる形を望む声が多く見られました。
4 つ目、学校の適正規模・適正配置についてです。8 ページの問 7、問 8、9 ページの問 9 が該当します。こちらは問の内容が分かれているため、それぞれについて説明します。
子どもの教育環境では、
・子ども同士が刺激しあい、学力、体力を高めあうことが出来ること
・子ども達が社会性や協調性を身につける機会があること
・一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることが出来ること
これらが重要視されており、たくさんの子ども達と学び合い成長していく、その中で一人ひとりが尊重されることが求められているという傾向でした。
問８　小規模校対策としては、
・通学区域の変更や柔軟な運用を検討すること
・小中一貫校の新設等、新しい学校形態を検討すること
が重要視されており、各地域（旧三町）に学校があり、学区が自由であること、もしくは小中一貫校を新設する、という意見が多い結果になっております。いずれも旧町ごとに１校は存続してほしいという傾向がみられました。
小学校、中学校の統合を検討するとした場合、特に配慮が必要なこととしては、
・児童生徒が快適に学習できる環境整備
・統合した学校の設置場所
・安全な通学手段
が重要視されており、学校の設置場所も重要だが、それ以上に児童生徒の学習環境や安全な通学手段が重要、という傾向がみられます。
その他と回答した方の自由記述の部分では、
・離れた地域に学校がある場合、緊急時の対応が不安
・環境の変化によりストレスがかかる子どもへのサポートが必要
という意見がありました。

アンケート結果については以上になりますが、全体をとおして、
・1学年の学級数は多く、1学級の人数は少ない方が良い
・小規模校対策としては、学校区を自由化することや、小中一貫校という新しい形を検討する
・安全な通学手段の確保と、勉強以外にもサポートの充実が必要
という意見が多数見られました。
児童生徒数の減少により、学校環境を適正化する必要性はあると考える一方で、環境が変わることに不安がある、不安解消のための方策を求めている方が少なくないと捉えています。加えて、今の環境を変えてほしくないという声もあり、地域に学校があることの重要性と意義を改めて認識したところです。児童生徒のアンケート結果については割愛させていただきます。
以上で説明を終わります。

●大橋委員長　事務局からの説明が終わりましたので、質問等ありませんか。

（なしの声）

●大橋委員長　質問等ありませでしたので、アンケート調査については以上となります。次に、2）小中学校の現状についてです。校長先生からお話をいただきたいと思います。最初に、金浦中学校の佐藤校長先生お願いします。

●金浦中 佐藤校長
市内で、一番、生徒数が少ない中学校です。令和4年度は全学年単学級で、1年生21人、2年生30人、3年生24人の計75人。昨年から10人減りました。令和5年の新入生は20人台の見込みです。教員数は学級数により決まるため、変動はありません。
メリットは
・教員一人あたりの生徒数が少ないため負担が少ない。
・目が届きやすく、個に応じた教育ができる。
・上級生が下級生と多く関わることで責任感を持つ。
・家庭や地域の協力が得やすい。
デメリットは
・互いの評価が固定され、競争心が生まれにくい。
・人間関係が固定化され、新しい人間関係を築きにくい。
・美術の先生がいないので、週1回、金浦小の先生が教えている。技術の先生がいないので、体育の先生が教えている。

・運動部が単独でできないものがある。野球部 0 人、サッカー4 人、柔道 8 人、バレー3 人。サッカーのクラブチームに所属している生徒が 15 人。

●大橋委員長　ありがとうございました。続きまして院内小学校の阿部先生お願いします。

●院内小 阿部校長
市内で一番児童数が少ない学校です。1 年生 15 人、2 年生 15 人、3 年生 21 人、4 年生 22 人、5 年生 20 人、6 年生 20 人で全校 113 人です。昨年よりも 12 人減となっています。
メリットは
・教員が、全児童の顔と名前を覚えている。日常的に気づいたところを話し合い、学校全体で子ども達を見ている。
・委員会など、子ども 1 人の担当が増えるが、責任感を持って行動している。
・地域に密着した学校。
・アンケートでは、「自分にはよいところがある」と回答した児童が 95%、また、「人の役に立ちたい」が 97%となっている。県内他の学校より自己肯定感が高い。
デメリットは
・人間関係が固定化され、新しい考えが生まれにくい。
・スポ少は単独でできないものもある。（単独でできるのはバレー、女子ミニバスケ）
・スポ少を他の地域で行う競技は、保護者の負担が大きい。（野球、サッカー、男子ミニバスケ）

●大橋委員長　ありがとうございました。学校の現状について説明が終わりました。質問等ありませんか。

（なしの声）

●大橋委員長　質問等ありませんので、次に進みます。次に３）グループ討議に入ります。事務局から説明をお願いします。

●今野課長　各グループで話し合っていただく内容は、市内各学校の「よさ」、できれば「課題」についてもお願いします。また、望ましい学校規模「学級人数」「学級数」と望ましい通学距離と通学時間（通学手段）についても検討してくだ

さい。
それでは、各グループでの討議を始めてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿グループ討議の概要＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

A グループ

平沢小学校

メリット

・理科、科学分野への関心が高い。理科研究発表や WRO など各種大会でも優秀な成績を収めている。
・科学に関して積極的な子どもが多い印象。どんどん進んでできる。
・クラスが複数あり、他のクラスと競うことができる。勝ったときの喜びを味わうことができる。
・スポーツや習い事をしている子が多数。活発な子どもが多い印象。
・クラブ活動がそのまま地域との活動に繋がっている。高校生、大人になってもそのつながりが続いている。
・海から近い、高いところにある。
・プラネタリウムがある。

デメリット（課題）

・人数が多いためか、「私以外に、誰かがやってくれる」という自分の存在を隠そうとする姿が見られる。
・校舎が海から近い分、津波のおそれ。
・天候に関係なく自家用車での送り迎えが多い。（体力の低下につながるおそれ。）

院内小学校

メリット

・生徒と先生が一体となって学校行事を行っている。
・学校だよりを地域に配付。「より、地域に開かれた学校にしていきたい」という姿勢が見える。
・人数が少ない分責任感を持って行動している子が多い。
・地域に密着している学校。一緒に活動（祭りなど年中行事）がしやすい。
・中学校まで同じメンバー。進学時の心の負担が少ない。
・先生方が、学年を超えて生徒のことをよく知っている。
・山や川が近いところに学校がある。遊びや学習が楽しくなる。（デメリットもあり）

・子ども達が住んでいる地域のことをとてもよく勉強している。
デメリット（課題）
・校舎の老朽化が目立っている。
・入りたい部活がない。
・祖父母が付き添ってバス停まで行かなければいけないので負担が大きい。
・スポ少の合同チームがかわいそうだと感じるが、保護者、地域の協力を得やすいというメリットも併せ持っている。

金浦小学校
メリット
・来校者、地域の方への挨拶が元気にできる。
・他校と比べ、通学範囲が狭いため通いやすい。
・先生の目が届きやすい。（中学校と共通）
・子どもが少ないので、一人ひとりが活躍できる場面が多い。（中学校と共通）
・上級生がリーダーの意識を持ちやすい。（中学校と共通）
・どの授業でも物おじせず発言できる子が多い。（中学校と共通）
・学校だよりを全戸配布している。地域全体で学校を見守ってくれている。地域との繋がりが強固。（中学校と共通）
・学校がきれいでうらやましい。設備も整っている。
・中学校と隣接している。兄弟が小中どちらにもいる家庭には、通学や送迎にメリット。（中学校と共通）
デメリット（課題）
・子ども同士が物心ついた時からずっと一緒にいるため、仲が良すぎて競争心が育ちにくい。
・生徒数が少ないことで、学ぶ先生の人数が限られてしまう。
・部活動が活発になりにくい。
・子どもに何か部活動をさせたいが、できる競技が限られ、送迎も大変そう。
・学校敷地が広いので、多くの人が利用できるような、地域に開かれた学校にできたらいいと思うが、外部の人を校地内に入れる際、防犯上の問題があり難しい。

象潟小学校
メリット
・海と山が近くにある。
・交通の便がとてもよい場所にある。（デメリットもあり）
・いろんな地域から子ども達が集まっている。
・改修工事をしてきれいになっている。（校舎自体が古いことはデメリットに）

・素晴らしい自然環境の中で「にかほジオ学」を学ぶことができる。地域支援コーディネーター、ジオガイドなど協力体制もしっかりしている。
・全学年、複数クラス。その中で子ども達が切磋琢磨している。（中学校と共通）
・地域の伝承芸能を学ぶクラブがある。
・登校班があるため、安全に登校できている。

デメリット（課題）

・交通の便がよい一方で、交通事故が心配される。交通安全教室も教育の一環として大切になると思う。
・海が近いため、津波のおそれ。
・教職員数が多いため、共通理解を図る際に段階が必要。

<u>仁賀保中学校</u>

メリット

・広さ、立地が良い。勉強に集中できる環境である。
・校舎までの桜坂が魅力的。桜が咲く頃、通ったことを思い出すことができる。
・文化面で活躍する子どもが多い印象。
・在校していた時は、生徒と先生との信頼関係、一体感があった。今もそうであってほしい。
・生徒会が活発で、活動している姿が楽しそう。生徒会が中心になり行事を本当によく運営してくれている。
・校舎が新しい。
・複数の企業が地元にあり、職場体験等キャリア教育ができる。（象潟中と共通）

<u>金浦中学校</u>

メリット

・柔道は競技人口が減っているのに、金浦中学校には柔道部員が多い。特色ある学校環境といえる。
・子どもらしさのある素直な子が多い印象。なんでも話してくれるので、こちらからも声をかけやすい。
・地域内に一小学校、一中学校で同じメンバーのため、強い絆が生まれやすい。大人になっても繋がりがある。
・保護者、地域が協力的。学校だよりを全戸配布。反応がすぐ返ってくる。

デメリット（課題）

・チーム競技をするには、人数の問題でハンディがある。
・校舎が古く、条件的に悪い。

<u>象潟中学校</u>

メリット
・作文コンクール等、優秀な成績を収めている。自分の持っている意見をはっきり伝えることができる。
・大人数の中で常にもまれているため、精神的にたくましい子が多い。
・上位集団でのライバル意識が強い。
デメリット（課題）
・上位と下位の子どもに目が行くが、中位の子どもに目が届きにくい。
・校舎は陽の光が校舎全体を明るくしている。勉強する気持ちが高まる校舎だと思う。

全体に共通してみられるメリットについて
・総じて挨拶がきちんとでき、元気な子が多い。
・学校の統合を経験した地域では、それぞれの生活習慣や伝統行事など、異なる文化が融合することで、新しい繋がり、新しい発想が生まれる期待感がある。
・学校がきれいだと子どもの気持ちも変わると思う。（集中できる環境）
・少人数学級でかつ複数学級だと学力も向上する傾向がある。
全体に共通してみられるデメリット（課題）について
・登校にコミュニティーバスを利用している生徒の中には、昼で放課になったときに、家の人の迎えがないと帰れない。
・自転車通学が可能な地域でも、道路の付け替えやクマ出没等の問題で、送り迎えが欠かせなくなっている。
・「学童を利用する子どもは、通学にスクールバスを使わない地域に住んでいても下校にバスを利用してもいい」となっているが、スクールバスの定員以上になってしまい、各地域行きのバスに分散して乗車させ、学童を利用してもらった。
・小規模校の場合、技能教科（音楽、美術、技術など）の先生を配置できず、今後は１人の先生が２校、３校掛け持ちで教える事になる。
・新しく始まる高校受験のシステム「特色選抜」があり、大規模校（又はクラブチームに所属）のほうが部活、運動で希望校に入れるチャンスがあるように思う。小規模校で部活を頑張っても成績を残せなければ難しいと考えてしまった。
＊「特色選抜」に関して・・・決して部活の成績だけではないので、学力はもちろん、小学校中学校で毎日積み重ねてきたこと、頑張っていることを学校、保護者の皆さんが後押しして高校に送り出してほしい。

<u>学校規模</u>
・人数が多い、少ない、それぞれのメリット、デメリットがある。
・複数学級、単学級どちらがよいかというのは、はっきり言えない。

・教える立場とすれば、中学校は１学年 4～5 学級あったほうがいい。

B グループ

平沢小学校

メリット

・オーシャンビュー。こんな学校県内にないと思う。
・夏はすばらしく、冬は淋しくなる。
・プラネタリウムがある。
・多様な個性。
・気の合う人が必ずいる。
・人数が多いので、さまざまな子がいる。
・リレーの選手を選ぶのも、人選がしやすい。
・有名な先人　齋藤宇一郎、齋藤憲三親子。
・挨拶ほめられる。

院内小学校

メリット

・あいさつ元気いっぱい
・とても人懐っこい
・いろいろな大人から目をかけられている安心感からか人間不信がない
・高校生等になっても、あいさつする習慣がある。
・人数が少ないので、みんなことをわかっていて、友達の様子をよく話してくれる。
・親同士もお互いを認識しているので、安心感がある。声をかけやすい。
・先生との距離が近いように感じる。

デメリット（課題）

・人数が少ないので、部活動にしわ寄せがくる。（親の負担含む）
・コロナの前は、部活前学校で待機していたが、コロナになってから、一度家に帰らないといけない。
・４時、５時から部活が始まるまで、当番で親がつかないといけない。
・人数が少ないと、順番が回ってくる頻度も多くなる。
・当番が負担で、部活に入れない。ますます人数が減る悪循環が起きている。

金浦小学校

メリット
・立地条件が恵まれている。
・人間性は穏やか。
・こじんまりしている。
・明るい校舎。
デメリット（課題）
・風通りがよくない。
・スポ少単独難しい。
・大人数に、もまれることも大事。
・本来であれば、にかほ市にひとつの学校なのかもしれないが、３町の壁が…。

象潟小学校
メリット
・街中にある。
・敷地に神社がある。
・観光地が近い。
・伝統がある校舎。

仁賀保中学校
メリット
・校舎がきれい。
・校舎が明るく、廊下は広く、ちょっとした体育ならできそう。
・どうせ働くなら綺麗な校舎で働きたい。
・複数学級　心の交流できる。
・自転車通学 OK。
・自校給食

金浦中学校
メリット
・静かな環境
・海から離れた場所なので、災害に強い
・人数が少ないので、教室が余裕をもって使えている
・横断歩道で止まると会釈する
・校舎コンパクト

象潟中学校

メリット
・校舎が新しい。
・人数が多いので、クラス替えができ、友達関係が微妙になってもリセットしやすい。
・観光地が近い。

<u>その他</u>
・伝承芸能はその地域の方がやるのもよいが、せっかくだから、市全体で取り組めたらいいのでは。
・注文ばかり多くて、先生方は厳しい環境だと思う。
・中学校は３校まとめてもいいのかも。△校区の広さ問題あり。
・各地区に小中一貫校
・部活動が地域スポーツ移行するジレンマあり。生徒は、部活動をかなり楽しみにしている。先生方も部活動で活躍する生徒のよさを認められるというメリットがなくなる。（負担もかなりあるが）
・各校の環境を活かした学校運営に感謝。
・どの中学校も高速インターに近い。
・どの学校もよいところがある。
・小学校は、少ない人数でも、残せるだけ残す方向が望ましいと思っている。
・仁賀保高校は、市に一校の高校で最大のメリット手厚い支援を受けている。
・小規模校は、学習面は一人一人に目が届いてよい反面、人間関係が密になって、ちょっと崩れると修復する逃げ道がない。二クラスでも少ないと思う。最低３クラスないと新しい人間関係が生まれない。
・職員側からすると、小規模、大規模関わらず、仕事の種類は同じ。
・生徒数が減ると職員数が減る。職員が対応する生徒数は少なくても、他の業務は増える。ある程度の生徒数は必要。
・三町の壁問題　せっかく３町が一緒になったのだから拘る必要はないと思う。
・保小連携で研修もあるが、小中は近く連携しやすいが交流が難しい。入学した6月に行くくらい。保育園と小学校にも壁を感じる。
・こぴあで、本を読みながら水分補給ができるようにしてほしいと声あり。

<u>学校規模</u>
小学校
学級人数　20 人程度
学級数　２学級以上
中学校

学級人数　20 人～30 人
学級数　3 学級以上

C グループ

<u>平沢小学校</u>

メリット

・原則徒歩通学のため、体力向上につながる
・校舎のつくりが良い。作業がしやすい。学年部ごとに分かれて（まとまって）の活動が多岐にわたってできる
・学童と学校が同じ場所にあるため、子どもの移動が簡単、安全。
・登校時と違って明るい表情で帰宅している。
・クラス替えができる。
・運動会で同級生と競える。
・他の学年との交流が新鮮。

<u>院内小学校</u>

メリット

・少人数のため地域と学校の繋がりが強い

<u>金浦小学校</u>

メリット

・遊具、一輪車など他にはないものがある。
・地域の方の見守り。通学路に立って見守ってくれている。生徒に声を掛けると答えてくれるという関係性が良い。
・クラブチームへの所属。選択肢が広がる。自分から進んで参加する。
・異学年交流しやすい。高学年の子ども達の面倒見が良い。
・施設が隣接しているため、小・中の連携がとりやすい。
・元気に挨拶ができている。
・地域のお祭りなどに協力的。
・運動、勉強などで優秀な子が増えた。家庭が教育熱心。一人一人の資質が高い。
・学童と学校が同じ場所にあるため、子どもの移動が簡単、安全。

デメリット（課題）

・人間関係の固定化が少し強い。

象潟小学校

メリット

・学童と学校が同じ場所にあるため、子どもの移動が簡単、安全。

デメリット（課題）

・通学がスクールバスのため安全だが、高校になっても親が送らないと学校に行かないということにつながっているのではないかと思う。

仁賀保中学校

メリット

・自転車通学のため、体力向上につながる
・部活動が活発
・学校行事が活発
・クラス替えがあるため人間関係が広がる。
・行事で競い合える
・人間関係をリセットできる。
・上下関係（理不尽なことも）を経験できた。
・クラス替えにより交流関係が広がった。
・自分のクラスとは違う、他のクラスの雰囲気を感じられた。
・テスト、部活で競争が出来た。

金浦中学校

メリット

・子ども達が安心感を持って授業に臨んでいる。表情が穏やか。
・上の学年と下の学年の距離が近い（デメリットでもある）

象潟中学校

メリット

・部活動が単独で成立している。
・縦割り活動で複数学年の行事に取り組める。
・ランチルームがあることで、学年全体で顔を合わせる機会が増えている。
・建物が街の中心部にある。様々なところに移動しやすい。
・１クラス当たりの子どもが減っていることもあり、子ども達に対する先生方（サポート含む）の目が行き届いている。

全体のデメリット・課題（足りないところ）について

メリット、デメリットは表裏一体。多人数の学校のメリットは少人数の学校の課題であり、少人数の学校のメリットは多人数の学校の課題となっている。

<u>その他意見</u>

・大規模だからといって交流関係が広がるというわけではないと思う。今の子ども達は、複数学級あるところでも人間関係が固定化されている。気質が出ているのでは？
・１学級５０人だった時を知っているが、勉強する人はする、しない人はしなかった。少人数２０人にすることで目に見えた成果は上がっているのか？
人数を少なくすると目が行き届くことは確かだと思うが、それがどういう結果につながっているのかわからない。
・教師側としては人数が少ない方が教えやすいが、合唱コンクールなどは人数が少ないと物足りない感じがする。人数が多い方が迫力ある。見方によってどちらがいいか変わってくると思う。
・学級の人数よりも地域のことを考えたほうがいいのでは。
・学校は勉強を教えるだけでなく、人を育てる場所でもあるため、そういう面からみると、理想の学校の姿も変わってくる。
・少子化により、将来的に今の学校を維持できなくなることが考えられる。その状況を良しとして、何も対策を取らないか、小規模校を統合するなどの対策をとるか、可能な限り現状を維持していくのか、今後の方針を決めるのが検討委員会の目的。１０年後、２０年後を見たときにどうなっていくのかある程度推測はできるため、筋道を立てたい。
・将来的に平沢小・象潟小が今の院内小・金浦小の人数に減っていき、院内小・金浦小が旧釜ヶ台小の人数に減っていく傾向がみられている。その時になって、教員が確保できないなどの理由で、子ども達がまともに教育を受けられなくなってしまうような状況にはしたくない。そうならないために、合併や小中一貫校の新設の検討、既存の学校を残すにしても、少人数に対しての環境を整備したい。
その土台を作るための話し合いなので、どんどん思ったことを発言してほしい。それを積み上げて一つ、二つ方向性を定めたい。
・学区を超えた教育があってもいいのでは？
・各学校で特色のある教育環境をつくり、内外から人が来るような仕組みにしたら良いのではないか。アンケートにもそういった意見が多かったように思える。

<u>学校規模</u>

小学校・中学校
学級人数　３０人以下
　３０人を超えると、一人当たりの仕事量が多い。（負担が大きい）
学級数　２学級以上

<u>各班発表</u>

B
３町の壁。適正化、統廃合を進めていくにあたって話し合いが必要。
小学校は多くの地域にあり、中学校になると少なくなる。学校のある地域のみ恩恵を受けるのではなく、にかほ市全体で受けられると良い。

A
メリット、デメリットについては地域性もあるのではないか。自然環境も含めて、その良さが子ども達に表れている。

C
メリット、デメリットは表裏一体。
小規模校でもメリットは多いということが鮮明になった。
学校規模については小・中学校ともに３０人以下、２学級以上が望ましいという意見。

●委員長　最後に見山先生より講評をお願いします。

●見山先生
各グループを回らせていただき、それぞれの学校に様々な特色があることを学ばせていただきました。皆さんがお話ししていたように教育に唯一の正解は無いと思います。一人一人の個性を最大限に発揮することが出来る環境が重要だと考えております。大切なことは枠に当てはめることではなく、多様な選択肢をつくってあげること。それぞれの学校が特色を出して、子ども達が選択できる仕組みというのも一つの在り方として考えられます。国としても、教育については迷走しており、国自身がどうかじ取りをしていけばよいかわからない状況です。地方分権となったのも、国が地方のことに手が回らなくなってきたからだと思われますので、国に対してこうしたいということを発信していくことが重要だと思います。地方から出てきたものに対して、国は耳を傾けてくれます。今までのやり方は、これまではこうだった、と枠に当てはめる形のものだったかもしれ

ないですが、これからはどれだけ枠からはみ出して、自由度の高い教育の仕組みを市全体で作れるか、そんな挑戦をここではできるのではないかと考え、お話を伺っていました。
アンケート結果では、親と子どもの考えていることが極めて近かったことが興味深かったです。多様性を重んじること、小学生でもそういったことを考えているということは興味深いと感じています。
試行錯誤しながら進めていくことになると思いますが、ここから国に提言するようなことを検討していけたらいいと思っています。

●委員長　ありがとうございました。本日の案件はすべて終了しましたので、進行は事務局にお返しします。

●佐々木班長　最後に事務局より連絡事項をお願いします。

●今野課長　今日はありがとうございました。次回の会議ですが、１月後半を予定しています。第３回も学校の現状をお話ししていただきます。象潟小学校、仁賀保中学校お願いいたします。連絡は以上です。

●佐々木班長　以上を持ちまして、第２回学校環境適正化検討委員会を終了します。